Ⅵ．国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコストに係る注記

国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト

1　業務費用		
⑴　損益計算書上の費用	42,585,987千円	
⑵　（控除）自己収入等	△　31,777,630千円	
業務費用合計		10,808,357千円
2　資本剰余金を減額したコスト等		1,403,257千円
3　機会費用		
国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用	560千円	
政府出資の機会費用	434,995千円	435,556千円
4　（控除）国庫納付額		―千円
5　国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト		12,647,170千円

国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコストの注記における機会費用の計上方法

⑴　国等の財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用の計算方法

近隣の地代や賃借料を参考に計算しております。

⑵　政府出資等の機会費用の計算に使用した利率

10年利付政府保証債の令和８年３月末利回りを参考に2.345％で計算しております。

（減損に係る注記）

１．減損を認識した固定資産

⑴　減損を認識した固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要

（単位：千円）

用途	種類	場所	帳簿価額（減損前）	帳簿価額（減損後）
新栄町宿舎用地	土地	秋田県秋田市	114,000	73,300
情報データ科学部２号館	建物	秋田県秋田市	74,690	27,455

⑵　減損の認識に至った経緯

新栄町宿舎用地については、使用しないという決定を行ったため減損を認識しております。

情報データ科学部２号館については、躯体を残し全面改修を行っているため、躯体以外の部分については減損を認識しております。

⑶　減損額のうち損益計算書に計上した金額と計上していない金額の主要な固定資産毎の内訳

（単位：千円）

用途	種類	減損額のうち損益計算書に計上した金額	減損額のうち損益計算書に計上していない金額
新栄町宿舎用地	土地	―	40,700
情報データ科学部２号館	建物	304	46,929

⑷　回収可能サービス価額の算定方法の概要

新栄町宿舎用地については、正味売却価額として、不動産鑑定による土地価格を基に算定しております。

情報データ科学部２号館については、工事完了後除却となる金額を基に算定しております。

２．認められた減損の兆候の概要及び減損を認識しない根拠

⑴　減損の兆候が認められた固定資産の用途、種類、場所、帳簿価額等の概要

（単位：千円）

用途	種類	場所	帳簿価額
戸賀臨海実習所用地	土地	秋田県男鹿市	2,066
金砂町宿舎用地	土地	秋田県秋田市	18,900
乳頭ロッジ	土地	秋田県仙北市	19
	建物・構築物等	秋田県仙北市	2,494
ボイラー室	建物	秋田県秋田市	2,480
糠塚宿舎１号棟	建物	秋田県秋田市	24,940
糠塚宿舎２号棟	建物	秋田県秋田市	15,208
糠塚宿舎３号棟	建物	秋田県秋田市	17,098
糠塚宿舎４号棟	建物	秋田県秋田市	17,790
電話加入権	電話加入権	秋田県秋田市	198

⑵　認められた減損の兆候の概要及び減損を認識しない根拠

戸賀臨海実習所用地については、遊休状態にありますが、令和６年度に回収可能サービス価額（固定資産税評価額）まで減損を認識済みであるため、当事業年度においては減損を認識しておりません。

金砂町宿舎用地については、遊休状態にありますが、平成30年度に回収可能サービス価額（公示価格）まで減損を認識済みであるため、当事業年度においては減損を認識しておりません。

乳頭ロッジについては、使用中止により遊休状態にありますが、回収可能サービス価額（不動産鑑定評価額）が、帳簿価額を下回っていないため、減損を認識しておりません。

ボイラー室については、使用中止により遊休状態にありますが、回収可能サービス価額（使用価値相当額）が、帳簿価額を上回っているため、減損を認識しておりません。

糠塚宿舎１号棟、２号棟、３号棟及び４号棟については、稼働率が低下しておりますが、将来の使用の見込みがあり、その使用目的に従った機能を現に有しているため、減損を認識しておりません。

電話加入権（使用中、または休止回線のうち使用見込み有り）については、正味売却価額は帳簿価額から50％以上下落していますが、使用価値相当額（ＮＴＴの公定価格）が帳簿価額を上回るため減損を認識しておりません。

３．翌事業年度以降の特定の日以後使用しないという決定を行った固定資産

該当する固定資産はありません。